

足立区基本計画審議会  
第1回くらし・まち分科会 会議録

令和5年9月7日

## 足立区基本計画審議会 会議概要

会 議 名	足立区基本計画審議会 第1回くらし・まち分科会		
事 務 局	政策経営部 基本計画担当課		
開 催 年 月 日	令和5年9月7日（木）		
開 催 時 間	午前10時00分 ～ 正午		
開 催 場 所	足立区役所 南館12階 1205C会議室		
出 席 者	【委員】		
	宮本 みち子 分科会長	加藤 和明 副分科会長	長谷川 勝美 副分科会長
	遠藤 章 委員	國井 幹雄 委員	渡部 郁子 委員
	小柳 真太 委員	岡安 たかし 委員	渡辺 ひであき 委員
	【事務局】		
	政策経営担当部長 勝田 実	基本計画担当課長 伊東 貴志	基本計画担当係長 山崎 悠生
	政策経営担当係長 芳賀 優美子	政策経営担当係長 鈴木 力	政策経営担当係長 乾 洋平
	政策経営担当係長 土井 渉	政策経営担当係長 古田 信幸	政策経営担当係長 池田 広幸
	株式会社 地域計画連合 相羽	株式会社 地域計画連合 森田	株式会社 地域計画連合 柳坪
	福祉管理課長 近藤 博昭	都市建設課長 室橋 延昭	
欠 席 者	山下 俊樹 委員		
会 議 次 第	1 分科会長・副分科会長選出 2 今後の討議の進め方 3 第1回全体会での意見等 4 意見交換（現状と将来に向けた課題） 5 事務連絡		

資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【資料１】 今後の討議の進め方</li> <li>・ 【資料２】 第１回全体会での意見等</li> <li>・ 【資料３】 検討シート</li> <li>・ 【資料４】 第２回分科会開催通知</li> <li>・ 分科会での議論の進め方イメージ</li> <li>・ 第１回分科会での作業イメージ</li> <li>・ 事前質問への回答</li> </ul>
そ の 他	傍聴人：有 <input checked="" type="radio"/> 無 (    人 ) その他参加者：有 <input checked="" type="radio"/> 無 (            )

## 様式第2号（第3条関係）

（審議経過）

### 1 分科会長・副分科会長選出

（伊東基本計画担当課長）

本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、足立区基本計画審議会の第1回くらし・まち分科会を開催します。

私は、政策経営部の基本計画担当課長を務めております、伊東と申します。本日のくらし・まち分科会の会長・副会長の選出まで司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、足立区の基本計画審議会条例第8条及び同条例施行規則第8条により公開とさせていただきます。会議録は、ホームページなどでも公開させていただきます。また、会議録を正確に記録するため、録音もさせていただきます。また、広報やホームページに掲載するため、写真撮影もさせていただくことがございますので、あらかじめご了解ください。

本日の資料の確認をさせていただきます。まず、本日の次第、そして資料1「今後の討議の進め方」、資料2は第1回全体会での意見をまとめた資料と、意見提出用紙でいただいた意見をまとめた資料。そして資料3「くらし・まち分科会検討シート」。そのほか、本日の委員の名簿、席次表、「分科会での議論の進め方イメージ」。第1回全体会の追加の事前質問をまとめたもの。あとは事前質問への回答をまとめた資料。そして、意見提出用紙となります。それでは、くらし・まち分科会の委員の皆様の名前を読み上げさせていただきます。名簿に沿って呼びますのでよろしくお願いいたします。

（以下、順次読み上げ）

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。本分科会の会長・副会長の選出でございます。足立区基本計画審議会条例施行規則第4条において、「分科会には会長及び副会長を置き、委員の互選によって定める」とあります。まず、会長の選出から行いたいと思います。会長の選出については、いかがいたしましょう

か。

（加藤委員）

宮本先生を推薦します。

（異議なし）

（伊東基本計画担当課長）

それでは、学識委員である宮本先生に分科会長をお願いしたいと思います。

続きまして副会長の選出に移りたいと思います。副会長につきましては2名の方を選出いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

（宮本分科会長）

副分科会長について、私の方から推薦をさせていただきます。加藤委員と長谷川委員、それぞれ足立区に非常に詳しい立場ですので、副会長をしていただければと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なし）

（伊東基本計画担当課長）

加藤委員は、現在、足立区町会・自治会連合会の会長代行を務められています。また、長谷川委員は、足立区職員として政策経営部長等を歴任してきましたが、平成29年3月から副区長となっています。

それでは、会長・副会長から一言ずつご挨拶をいただきたいと思います。

（宮本分科会長）

分科会長を務めさせていただきます。既に、いろいろなご意見が出ていて、足立区をどうしたらいいかという、とても前向きないろいろな議論が出ていて、とても大事だと思うのと同時に、非常に楽しい有意義な作業になるのではないかと感じております。どうぞよろしくお願いいたします。

（加藤副分科会長）

分科会が充実したものとなるように、精一杯務めさせていただき、全体会に反映できるような分科会にしたいと考えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（長谷川副分科会長）

会長を支えて、分科会の速やかな運営に努めます。全体会で区長も挨拶しましたが、従来、基本計画は行政内部で作っていたものを、今

回、初めて地域の皆様を入れて作るということで、新たな一步を踏み出しました。皆様のご意見をいただいて、より良い計画を、これからの足立区の計画と一緒に作っていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 今後の討議の進め方

### （宮本分科会長）

それでは次第に沿って進めます。では次第の2、「今後の討議の進め方」ということで、事務局からご説明をお願いします。

### （伊東基本計画担当課長）

資料1と本日席上にお配りしている「分科会での討議の進め方イメージ」をご覧ください。資料1は分科会と全体会の流れでございます。全体会は全部で4回、分科会は全部で5回ございます。本日、第1回目の分科会を行いまして、その後分科会1回。そしてまた全体会に戻り、そして分科会をまた2回行い、全体会を1回、そして第5回の分科会となります。計4回の全体会とジグザグに進む流れにしていきたいと思います。全体会の間で行う分科会。今回は第1回目と第2回目になりますが、ここにおいて、現在や将来に向けた課題出しを中心にご議論をいただきたいと思います。そして、ひと・行財政分科会においても同じようにご議論いただく流れになります。それぞれ出た課題を全体会に持ち寄ってご議論をいただき、そして第3回、第4回の分科会においては、次期計画に取り入れる視点をどのような視点や方向性が望ましいのかというところを、第3回、第4回目の分科会でご議論いただきたいと思いますと考えております。その議論をまた第3回目の全体会に持ち寄り、まとめていく作業に入ります。大まかな流れは、そのように進めていきたいと思っています。

そして、もう一つの資料。討議の進め方。もう少しブレイクダウンしたものがこの分科会での討議の進め方です。本日と11月に行う第2回目の分科会では、課題についての意見出し。そして11月には出された意見をまとめていくといった作業に行きたいと思っています。そして3

回目、4回目の分科会で方向性を具体的にどのような施策にどのように生かしていくのかといったところの掘り下げた議論をしていきたいと思っています。来年度になりましたら5回目の分科会では、区の方にいただく答申案の検討をいただきたいと思いますと考えております。

### （宮本分科会長）

ありがとうございました。それではただいまのご説明について、意見等のある方は挙手をお願いします。

（異議なし）

### （宮本分科会長）

それでは、ただいまの進め方については、これで行くことになります。

## 3 第1回全体会での意見等

### （宮本分科会長）

それでは次第の3、「第1回全体会での意見等」について事務局からご説明をお願いいたします。

### （伊東基本計画担当課長）

では、資料2をご覧ください。資料2は8月31日に行われた第1回全体会で出たご意見のまとめでございます。事務局で基本構想に基づく四つの視点。「ひと」・「くらし」・「まち」・「行財政」に沿った整理と、あとは横断的なところの意見になるのかなというところを下にまとめています。

「ひと」に関する分野ですと、子育てしやすいまちを目指していくべきではないかという中で、中間所得層や、今、子育ての現役世代に対して支援を更にしていくべきではないかという話。「くらし」の分野ですと、高齢者にやさしい区を作っていくことが大事、そしてまた高齢者が高齢者を見守っていくといったシステムを作ることが大事なのではないかというご意見。あとは高齢者とこれから新しく生まれてくるお子さんとか、あとは従前から住んでいる区民と、今、新しく移り住んでいただく区民の方、新しい世代の方々がうまく融合するような仕組みを作ることがいいのではないかというご意見をいただきました。また、「まち」の分野については、地域の方々がどんなことを望んで

いるかというところのディスカッションを深めた上で、共にまちを作っていく姿勢が地域において必要ではないかというご意見。また、「行財政」の中では、全般的に施策を充実させていきながらも、特に他区から人を呼び込むことができるような施策を展開する。あとは区のいい面、プラス面をどうPRするかが大きな課題だというご意見をいただいています。

また、横断的な意見としては、足立区にはいろいろな方がいらっちゃって、新しい足立区での変化が起きるような魅力あるまちになるのではないかということです。あとは多様性を大事にできるようなまちにしていけることが大事ではないか。単に生きているのではなくて、楽しんで生きていくというようなウェルネスのプラットフォームになるような足立区が望ましいのではないかというご意見。また、宮本会長から、今後中年のシングル層が増える傾向が見受けられるので、高齢単身者だけでなくミドル期シングル層を区の中で位置付けることが重要ではないかといったご意見をいただいています。また総括的なところでは、担税力のある方々をいかに呼び込むかというところの施策も大事だというご意見をいただきました。

なお、全体会の後に、山下友美委員と秋山委員から追加で頂いたご意見もつけておりますのでお目通しいただければと思います。

#### **(宮本分科会長)**

ありがとうございました。ただいまご説明をいただいた内容は、31日に行われた全体会の意見概要ということでございます。事務局の方で短い時間で適切に取りまとめていただいたということで、大変ご苦勞があったと思います。それでは、全体会でご発言された方の中で、このまとめに関して何かご意見等がございましたら、お出してください。

#### **(遠藤委員)**

「ひと」に関する問題で、子育てしやすいまちということで、これが課題として挙がってきたのですが、現実に関、足立区の場合、子育てしやすいような方策とか施策とか具体的に何かありますか。

#### **(伊東基本計画担当課長)**

子育てしやすいということは、多岐にわたっている問題です。例えば出産のところ。出生から乳幼児期に、安心してお子さんを育てられるよう、保健師が出産前から妊婦に寄り添うようなASMAP事業は、他区と比べて先進的に進めてきた事業です。また、子育てをするにあたり、経済的なところで不安がある、特に教育費のところで不安があるといったご意見をいただいておりますが、大学に進学する際の費用を給付するという、給付型奨学金制度に今年度から取り組んでいる現状がございます。

#### **(小柳委員)**

私は3人の子どもがおりまして、今、一番が小3ぐらいなので、だいぶ子育ての厳しいところは抜けてきた感じはあります。結構つらかった部分としては、1人目が入った保育園が少々、家から遠いところでして、2人目以降を別の保育園に入れるのも、それはそれでしんどいので、同じ保育園に入れていくことになるのですが、計10年間ぐらい遠いところに3人通わせなければならなかった。順次抜けてはいくのですが、1回入るとそこに固まるという問題があります。年によって空き状況が変わるので、1回入ったからといって転園できないのが問題になっているとすれば、もっと柔軟に転園できるような仕組みがあると楽になる人もいます。

#### **(宮本分科会長)**

転園はできないんですか。

#### **(岡安委員)**

できます。ただ、最初からの保活と一緒になので、その点数で、必ずしも申し込んだ家のそばの保育園に入れるかどうかというのはわかりません。転園を申し込んで、移られている方もいらっしゃいます。

先ほどの子育てに関する事業についてですが、かなり足立区に特化したものもあります。23区でほとんどやっている同じようなことかもしれないけど、全国的に見たら進んでいるものとか。その中でも、まだ課題がないかというところはないです。

#### **(伊東基本計画担当課長)**

乳幼児期、就学前、就学後というところで、

多々施策を行っていますが、子育てと一括りにできない部分があります。お子さんのフォローであれば、当然教育という部分も力を入れてきた部分ですし、足立区の子どもたちが生き抜く力を高めていくために様々な施策を打っているところです。自信を持ってもらうために学力を向上させることは、特に力を入れてきたポイントかなと思っています。そのあたりは、先日お示しした検討素材の中にも入っていますが、成績も過去に比べて伸びてきているといったことで、着実に成果は出ています。

**(渡辺委員)**

岡安委員の話に補足しますが、切れ目のない子育て支援ということを足立区では最近言うようになっていきます。出産前から、妊娠から出産、そして大学生に至るまで、それぞれ世代ごとにメニューはたくさんあるなと感じています。ただし、ちゃんと区民の皆さんに知っていただかなければいけないという課題があります。一方、子育てをしやすい足立区だから住みたい、と選んでもらうには、また別の意味での課題があると思っています。

**(宮本分科会長)**

切れ目のない子育て支援は、こども家庭庁が全面的に言っていることですが、足立区はこの間、かなり取り組んできたところだという感じがします。一つは広報の問題があるかもしれません。メディアが「あそこの市はいい」となると、人々の目がドーッとそっちに向きます。流行みたいなのところがある。そういう点では足立区はもっと広報に力を入れ、上手くやるというのが大事な感じがします。

**(渡部委員)**

今、11歳の息子がいます。保育園の待機児童は、この10年ですっかり良くなって、10年前は確かに入れないとか、すごく遠くに行かなければいけないという問題があり、それこそ入れない人が多くて大変だったなという印象があります。あっという間に子どもの数も変わってきますが、今、ゼロでできているというのは素晴らしい成果だと思っています。アンケートを見ても、子育てしやすいと感じている方が微増ですが確実に増えているし、東京の子育ては

しやすいと感じているところです。足立区の場合、他と足並みをそろえた施策が全部そろっているなという印象があります。それは逆に言えば、最低限の支援であり、例えば、出産の手当は一律あるけれども、私が東医療センターで出産した時に、入院が全部で60万円超ぐらい掛かり、38万円の支援金では全然足りませんでした。どこの病院に行ったら、どれぐらい金額が掛かるのかという情報は全然出てこない。出産して帰ってきて、請求書を見たら、「お、こんな金額なんだ」ということが分かった。最低限の支援しかないの、そうすると、出産するところをすごく必死で選ばないと、お金がないと出産ができないという、本当にそういう問題を抱えている方も結構たくさんいらっしゃる。そういう点で、安心して子育てができるとか、出産ができるようにしていく必要がある。

幼稚園の問題について。保育園はたくさんあるのですが、区立の幼稚園は三つしかない。近くに区立幼稚園がなかったため、仕方がないから私立に行くと、すごい金額で教育費が掛かります。区立だとかなり安いのに、私立だと支援が少なく、結局、こんなにお金が掛かったみたいなことが後になって分かるんです。従って、最低限の支援だけではなく、都内で暮らすと、やはりそれなりにお金が掛かるというところを踏まえて、もう少し上乗せするような施策ができれば良いと思います。そうすれば、教育に力を入れたいとか、子育てにしっかり取り組みたいという人たちにとっても、満足の行くようなところに手が届くようになるのかなと感じました。経済的という意味では、子育てにすごく不安があるというのが足立区の現状かなというのは今も感じているのと、最低限の施策はあるけれども、最低限の支援だけでは足りない部分がたくさんあるなというのが意見です。

**(加藤副分科会長)**

流山市が人口が増えた、世帯数が増えたということが、いろいろなマスコミで取り上げられています。その背景に、保育園の充実、子ども施策の充実があると言われています。足立区もかなり良くなっていますが、子育てにおいて何がまだ足りないのかをピックアップし、それで

検討していくことも必要だと思います。

**(宮本分科会長)**

おっしゃる通りですね。一度並べてみて、具体的に足立区は子育てで非常に魅力のある区であるということが証明できるものを作る必要があります。何となく漠然と足りないという議論ではなく、進めて行けると良いです。事務局で対照表を作っていただきたい。足立区以外にも明石市など、全国で評判になっているところがあります。それと比べて足立はそんなに劣っているのかどうかは、本当は比べてみないと分からないような気がします。

**(岡安委員)**

本分科会は「くらし・まち」がテーマであるため、あまり「ひと・行財政」のところは言いたくないのですが、「ひと」のところを出された意見で、所得制限をなくして、幅広い方が受けられるような施策が必要だというのがあります。もちろん、所得制限がない方がいいのですが、所得制限をどんどんついているものをなくすというのが本当にいいのかどうかというのは、これまた別だなと思っています。ある程度線引きしなければいけないもの。また、制限があることによってむしろ充実するという、逆説的な言い方ですが、そういうものもあります。区長のいろいろな議会での答弁はインターネットでも見られるので、読んでいる方は分かると思います。区長の考えというのは、必要な方により必要以上に、というものです。「選択と集中」という言い方をよくしています。幅広く薄くというのも大事かもしれませんが、むしろ、足立区の場合、より必要な人にしっかりと手当をしていくという考え方を、今、濃くもっているのかなと思っています。そうは言っても、いろいろな方がいます。障害のある方、貧困の方、虐待で困っている家庭など。様々な方に、どのようにいろいろな施策を足立区の恩恵を感じてもらえるかというのは、本当に行政の頭の痛いところだと思います。

先ほど言った、いろいろなことを最低限はやっているという意味では、ここがすごく欠けているというのは、足立区にはないのかなと思います。では、すごい飛び抜けているのがいっぱ

いあるかということ、それもいっぱいはないかなということもあります。どこを目指すかというのは、限られた財源の中で難しいと思っており、所得制限に関しては、私はちょっと違うと考えます。

**(小柳委員)**

所得制限をすることによって、いくら浮いているのか分かりませんが、それほどたくさん浮いているとも思えません。所得制限に当てはまる人が何人いるのか。それによって抛出する金額がいくらになったかといったものと、何かが天秤に置かれているわけです。それでメッセージが出てしまっているということだと思います。所得制限をすることによって「差を付けますよ」というメッセージを受け取った所得制限される側の人は、ノットフォーミーとなり、足立区には来なくなってしまう、近寄らないようにしようとなってしまう、結果、ますます税収も下がっていく。そういうスパイラルにもなってしまう。つまり、足立区は、貧困層に対してはかなり積極的に財政を出す。これは、かなりいいことだと思うのですが、そういう区なので、貧困の人たちだけ住めばいいよね、というふうに、そういうメッセージとして受け取られかねない側面がある。そのメッセージと浮いているお金を天秤に掛けて、本当に得ができていいのか、何か数字で見た方がいいと思います。

**(宮本分科会長)**

そのあたりは非常に大事なことで、「ひと・行財政」分科会とも共有しましょう。足立区をどういう区にするのかというイメージの点でも、非常に重要なポイントですね。経済的に困難な方にばかりに支援を行っているというメッセージが伝わってしまうと、これは大変問題になる。どういうメッセージを発信するのかは大事です。

#### **4 意見交換（現状と将来に向けた課題）**

**(宮本分科会長)**

意見交換にあたっては、事務局で検討シートをご用意していただいております。ホワイトボードにも貼ってあります。事務局から、この検討シートについて説明をお願いいたします。



**(伊東基本計画担当課長)**

「第1回分科会での作業イメージ」をご覧ください。冒頭に申し上げた通り、1回目、次の2回目は現在の足立区の「くらし」・「まち」分野における課題、将来的に起こり得る課題を中心にご議論いただきたいと思います。作業イメージのペーパーをご覧ください。これは、あくまでも一つの例ですが、例えば、先日の第1回全体会の意見の中で、地域コミュニティが希薄化しているのではないかとのご意見がありました。これについて、課題ということを出すとすれば、どういったことなのだろうかというところが、矢印が上に出ているところです。中年シングルが増えているという課題、若者世代が定着していないという課題、商店街が地域コミュニティを担っていたが衰退しているといった課題など、テーマに沿って関連する課題を今回は多く出していただきたいと思います。そして、新たな視点での発想ということで、では、そうした課題がどのような視点を持っていけば解決するのだろうかというところに論点を出していただければと思います。全体会の意見であれば、多様性を多く取り込んでいくといったご意見も当てはまると思います。もちろん、今まで出た意見にとらわれず、新たな視点でもお出しいただきたいと思います。

**(宮本分科会長)**

では、ただいまのご説明を踏まえて、お手元にあるこの図などを見ていただきながら、まずは、課題を中心にして出していただくといったことで進めたいと思います。

**(遠藤委員)**

全体会にて、商工会議所の立場から、商店街のコミュニティが非常に下がっているということをお話をしました。商工会議所では、課題を見つける時はよくマーケティングSWOT分析というのをやります。強みとか弱みとか、これをやっていけばいいとか、あれをやっていけばいいとか。それで課題を絞って出して、その課題に対して、集中的に短期的にやるのか、長期的にやるのかを決めていきます。時間とお金が掛かるので、皆さんの知恵でそれを出してもらえないかと思います。商店街が衰退

して、なくなっているのは、目に見えてお分りになっていると思います。地域社会の担い手でもあった商店街のコミュニティは、とても弱ってきている。加藤副分科会長が関わっている町会も、年齢層が相当みんな上がってきていて、それぞれ若手があまりいないという課題がありますが、それに対してどうするかというのを早く見つけないと、地域のコミュニティは成り立ちにくいと思います。

**(加藤副分科会長)**

町会の問題が出ましたが、町会は「ひと」・「くらし」・「まち」・「行財政」、その中で「ひと」の中に入っているのですか。全部に関わる問題ですから。

**(伊東基本計画担当課長)**

整理としては「くらし」ですが、もちろん、加藤副分科会長がおっしゃるように、すべての分野に通じます。

**(加藤副分科会長)**

本分科会は「くらし・まち」ですが、他分野に掛かっても差し支えないということですよ。どこの団体でも言えると思います。これは、町会に限ったことではありません。「若い方に」と言ってもなかなか、なり手がいない。他の団体もそうだと思います。定年制があればいいのですが、ないですから。結果として、どうしてもそのまま継続して行くことが多いです。若い方をお願いしてもなかなか。今の社会的な情勢から言って、会社が厳しいとか、時間がないとかって、受けていただけないのが現状です。商工会議所などは、結構、そういったことがあるのではないのでしょうか。役員の高齢化があるのではないですか。

**(遠藤委員)**

商工会議所は比較的世代交代を上手くしています。だからその辺がうまく行っている団体と行っていない団体がはっきり分かれて、二極化してくるかもしれません。

**(加藤副分科会長)**

3年間のコロナ禍の影響は大きいです。いろいろな行事が3年間ほとんどできなかったこともあり、町会員からは町会の姿が見えないというご意見もいただきます。コロナが2類から5

類に変わり、今年度からは、ほとんどの行事が行われている状況ですが、かなり見直されてくると思っています。

#### **(遠藤委員)**

基本的に、衰退しているのは商店街、町会とかですが、それはなぜかという、個人の主体でやっていただけるか、やっていただけないかというのがあってと思います。商店街も自由参加であり、やりたくなければやらなくてもいいという制度です。商工会議所がなぜ上手く交代ができていくかというと、基本的に本部の人間は、いわゆる正社員だからです。足立支部に来ているのもみんな正社員です。コンビニとかボランティアチェーンとか、フランチャイズとかVCは、プロフェッショナルがやっているの、店をやっているのは素人ですが、基本的にそれを担っているのはプロなので、そういう交代が上手く行っているところがあります。

#### **(加藤副分科会長)**

魅力ある町会というのは、いろいろ見直さなければいけない点があるのでしょうか。

#### **(遠藤委員)**

コミュニティを作るにはどうしたらよいのでしょうか。

#### **(渡部委員)**

そこには分断があって、団体は皆さん、若い人がいないとおっしゃいますが、若い人の話を聞くと、やりたいけどやらせてもらえないという声をたくさん聞きます。例えば、今、東和の町会では、芸大の寮があり、関連のイベントが増えています。子育て世帯に、まさにすごく魅力的なイベントが急に増えてきて、コロナがきっかけだったのか、ちょっと入れ替わりが何かあったのかわかりませんが、ちょっと嬉しいという声をいくつか聞いています。結局、今、町会も商店街も人がいないと言うのだけれど、どうしても分断があって、そのコミュニケーションが取れていないというのが問題である。その一方で、今までずっと続いてきた大事なイベントを残したいという気持ちも分かるのですが、それが今の時代と合っていない。今の若い人たちに魅力に映っていないところは、上手く融合しなければいけない点だと思っています。

本当は町会とかでやりたいけど、できないから個人的にいろいろな活動で、いろいろなイベントを立ち上げているNPOとか、任意団体がやっている。それらが本当に地域と融合して、大きなイベントにしていけたら、もっともっと魅力あるイベントも、地域のいろいろな世代の人たちとつながるようなイベントにもなるだろうなと思いつつ、地域の大事なイベントも守っていくような活力になるだろうなと思っています。本当は、やりたい人もいるし、できる人もいます。しかしながら、そこが上手くつながっていない。それは町会などに入ってもやりたいことができないとか、なかなか入る術がない。いない、いないと言いながら寄せ付けていないところも結構聞くので、そこをどうにかできたらいいなと思います。

#### **(小柳委員)**

町会でないとできないことではないのであれば、町会に入ってやる必要がないので、今こういう状態になっているということだと思います。しかしながら、町会側としては、もっと大きくして町会が一手にいろいろなことをやりたいと思っているのでしょうか。町会が今までどうあったかは置いておいて、これから町会はどうなっていきたいのか、今の役割はまだあるのか、ではないでしょうか。大きい町会というのが、今後も続いていく必要が今に至ってもまだあるのかどうか。既に細かく自分たちのやりたいことをやっている人たちがいるのであれば、それらのネットワークの方が大事であるのかもしれない。大きな町会というものがいるのかどうか、岐路に立たされているかもしれないという気がします。

#### **(宮本分科会長)**

孤立ゼロプロジェクトの委員を第1回目からやっていますが、最初の時に区長から高齢者問題をやる時に、NPOでやるのか、町会でやるのか、いろいろな形があるが、足立区は町会が非常にしっかりあるので、それを軽視して、いきなりNPOに持っていくのは、かなり抵抗があるというお話があり、町会単位でやるようになりました。足立区でなければできないという形で前進したと思います。ただし、10年経つ

とやはり状況が変わってきます。孤独ゼロというようなことを、町会単位でなくても、やり方はあるはずです。そのあたりも検討し直して見る必要があるのかなという感じが、この委員をやっているところなんです。この10年間は、とても素晴らしかったと私は思います。

もう一つ、ついでに申し上げますと、シングル問題です。シングルは男性が今のところは大変多いです。男性シングルで中年期、40歳、50歳ぐらいがかなり増えています。これは、特別区全部に言えることです。今後、増加率で言えば女性ももっと多くなっていくはずなんです。20年ぐらいすると、男女のシングルの数が同じになる可能性があり、その方たちが、やがてはみんな高齢期に入るわけですので、これ自体かなり大きな変化であり、課題と考えています。男性シングルの方は、会社と自分の家以外に居場所がないというケースが多い。従って、何かあって困った時にどうするかという時に、手を挙げられない人が圧倒的に多い。例えば、1週間、高熱で買い物にも行かれないとか、災害の時とか。誰か頼める人がいるかという、いないという人が多いわけです。年を取ったらどうしますかという、男性は圧倒的にホームヘルパーとか言います。いきなり、行政サービスを受ける方にポンと行くわけです。このままいくと、シングルの方たちが高齢期に入った時、寄り添えない人が今より増え、全部を行政サービスに期待するようになると、とてももたないという状態になるかもしれない。その方たちがもっと地域の中で何か社会関係を築くことができないと、とても大きな問題になると思います。

一つは、災害の問題は男女ともに言えることですが、もしここで大地震が起きた時に、独り身で避難所に行ったって、誰も知り合いはいなくて、どうしようか、すごく大きな、誰もが不安に思っている。思っていない人はいないぐらいでしょう。従って、災害問題とつなげてコミュニティというものを、もう一度考え直すのはとても重要です。特に災害時は、今までだと家族単位で避難です。しかしながら、東京23区は家族単位ではないと思います。シングルでの避難となり、その時にどうやってその人たちを

組織化するかというのは、とても大きい問題です。孤立・孤独と何だろう、命の危険みたいなそういう状態になるという感じ。

シングルの方たちも、このままではいけない、何か関係を付けなければという考えは持っている。特に、女性は圧倒的にそういう気持ちがあります。男性はあまり持たないところがまた問題ではあります。町会とかはとても独り身の自分がいられる場所がない、特に子どもを持っている方たちが多い地域だと、自分たちが行っても居場所がない。自分たちの居場所ってどこにあるんだろうって悩んでいるわけです。この点は、まちづくりで、これからすごく重要だと思います。

「ウィークタイ」、「弱い絆」という言葉があります。反対が「ストロングタイ」であり、「強い絆」です。今、社会全体としては「ウィークタイ」を求められています。弱い絆をどうやって増やすか、それをどうやってまとめていけば機能するかという話です。町会みたいになんじがらめになるのは絶対に嫌。NPOとか、自主的にやる活動はみんなウィークタイです。シングルの人で趣味でつながっている人はいますが、私生活はお互いに明かさない。楽しいことだけ一緒にやるという傾向があります。そのような関係性を豊富にしていけないと、コミュニティに参加できない人たちがどんどんできていくのではないかと思います。

#### （遠藤委員）

シングルとシングルだったら、集まっても面白いことができるのですか。

#### （宮本分科会長）

男性の場合は、例えば、バイクに乗るといった活動で、趣味を持っている人たちはいる。それから、女性の場合はジム通い。高齢者もそうです。ジムが今、よりどころという方もいる。まさしく、ウィークタイです。あそこへ定期的に行くと、顔見知りが出て、何となく言葉を交わすという、そういう感じで、ジムはよく話にできます。あと、女性の場合は、例えば、ファンクラブ。追っかけをやっているシングルの女性たちは、結構多いということが分かっています。まさに、ウィークタイで仲間ができ、男

性ほど孤独ではない。

**(加藤副分科会長)**

孤立ゼロプロジェクトに関しては、民生・児童委員が名簿を持っているので、町会にその名簿を提供してほしい。ただし、町会に加入している世帯はいいのですが、加入していない世帯が分からない。今、加入率は50%を切って45.7%です。名簿をもらって、70歳以上の単身と75歳以上の世帯を調べてきました。この3年間、コロナ禍で引き続いての調査ができていませんが、これからまた始まると思います。

それから、女性・男性の違いについて。住区センターを見れば、圧倒的に女性が多く、男性は付き合いに慣れていないというのがわかります。今、65歳まで定年が延びているところもありますが、それまでは会社の付き合いがあります。会社の付き合いは地域性がないですから、今度は自分の住まいでの付き合いになります。60歳、65歳からなかなか地域での友達付き合いというはできないのではないのでしょうか。女性はPTAからずっと引き続いていきますから、強さがあります。従って、平均寿命も女性の方が高いじゃないですか。

**(宮本分科会長)**

でも、女性も心配ではあります。ミドル期の女性シングルの増加率は、男性の増加率より上回っています。シングルの半分は地方出身者ですが、これから地方出身者は人口も減っていきます。首都圏郊外部、埼玉、千葉、神奈川で生まれ育った人たちが東京に出ると、シングルになりやすいという状態。女性の方が上回るのはいづれ先かもしれませんが、女性の増加率が高いということがあります。とにかく子どもを中心に、関係性を作っていく時代が終わっているんです。そういう時に、どういう関係で人と関係を付けていくのかというのが、深刻な課題だろうと思います。

**(遠藤委員)**

都市の大きさの問題もあるんですか。小さなまちはどうでしょうか。

**(宮本分科会長)**

それはないです。とは言っても、未婚化と出

生率の低下は共通の減少です。ただし、程度から言うと、やはり東京23区は本当に特殊な世界です。コロナ禍で変わるかと思いましたが、当分は変わらないようです。今、若干、東京への流入が減っているところもあるけれど、全体として転入の方が増えてきています。

**(長谷川副分科会長)**

この間から会長がおっしゃっているシングルの増加についてですが、行政側からすると、8050問題が関連しているかと思います。例えば、高齢の母親と独身の息子さん、お嬢様がいる。この世帯については、母親の介護とかで行政ニーズがあるので、行政の対象範囲として見えています。会長が言われている、会社に勤めていてシングルの方というのは、行政ニーズがありません。納税はしていただいているのですが、ほとんど行政との関わりがないので、非常に見えない層だということを、今回、改めて感じました。

もう一つ、実は、基本構想を検討する際に、無作為で区民の方を選んでディスカッションしました。その時に印象に残っているのが、女性の40代か30代のシングルのグループがあって、そこでお話を聞いたら、「私たちだって居場所が欲しい、でも居場所がないから居酒屋に行くんです」っておっしゃっていました。そういう方々もやはり会社と家だけで、地域との関わりがない。たまたま区から案内がきて、抽選で当たったので、区に話す機会があったけれども、それまでは行政とほとんど関わりがない方々の話を聞きました。その時、この方たちは行政として見えていなかったなということを改めて感じました。

**(宮本分科会長)**

おっしゃる通りです。7年前に新宿自治創造研究所のプロジェクトで、新宿区のシングルの調査をやったのが、この問題に関心をもったきっかけです。新宿区もとても多く、流動的で、かつ経済的に厳しいシングルが多い。非常に大事な結果だと思って、区に提言しましたが、区は全然関心を持たず、そのままになってしまいました。その後、特別区長会調査研究機構のプロジェクトでもう一度、23区全体の調査をや

り直しました。まだ、本当に東京23区の行政課題になってはいません。おそらく、一番心配なのは、10年から20年後にシングルのままの高齢者がドッと増える時期、その時に初めて気付くことだと思います。私のグループが10月頃に関連する書籍を出す予定です。

#### （渡部委員）

都心部では、子どもを産まない独身の男女とも増えている。これは、どこの都市でも起きていることで、この先、東京がそうになっていくというのは、まさにそうだろうと感じました。逆に言えば、それはそういうふうになっていく。だからこそ、どういう人たちに足立区に来てほしいのかというところに力を入れるとすると、子育て世帯を呼び込むなり、若い世代を呼び込むというところを前面に出していかないと、そういう人たちが全然来ない区になるというのを、今、危惧として感じました。一方、誰でもウェルカムで、自然になっていくのはそれでいいよね、そこに特化して施策をやっていこうよというの、もちろんありですが。そうすると、今みたいな社会問題をドーンと受け取る時代がいつか来る。今、それをどう遅延させるかという、年齢をどんどん下げていく努力をどうしていくのかというのは、改めて必要なのではないかというのをとても感じました。今のままだとそういう状況になるという。東京都だからこその問題がありつつ、そこをどう食い止めていくかというところに目線があった方がいいのかなと聞きながら思いました。

#### （小柳委員）

どちらかというと、抗うのはもはや無理で、濁流のようなものが押し寄せてきている。その流れにいかにもうまく乗るか。食い止めるという発想は少々厳しいのかなと思っています。シングルの人たちが増えるなら増えるで、先ほど、居酒屋に行くという話もありましたが、その人たちの居場所を増やしたりとか、その人たちの幸せをサポートする方へ行かないといけない。華々しい人たちだけ取り込んで「いい区になったね」と言えるのかどうか。そういうところにいるのではないかと思います。

#### （岡安委員）

先ほど、宮本先生がおっしゃった、シングルが増加している傾向の中で、例えば、男性だとバイクだとか、女性だとファンクラブ。あるいは、男女限らずジム。そういったつながりのある人もない人もいます。例えば、土日はバイク仲間と走っていて、月曜日から仕事をして充実している人もいて、あまり地域のつながりを必要としていない。また、それを提供しても、「いや、別に」となるかもしれない。仕事が終わってもバイク仲間とつながっていくかもしれないです。ジムはずっとそうかもしれないです。すると、地域のつながりの必要性をどうやって訴えていくのかということではないでしょうか。それは、先の町会加入率にもつながると思います。

約10年ぐらい前ですが、ある地域のリーダーたる人が、「岡安さん、町会に入っていることのメリットとデメリットを教えてください」とおっしゃいました。自分なりに答えつつもです。でも、その方は私の話を咀嚼して、「結論から言うと町会に入らないことによるデメリットはあまりないですよ」みたいなことで結局、町会を抜けたんです。今時は、別に町会の回覧なんかなくても、インターネット、また街中の掲示板でいろいろな情報も取れる。変な話、盆踊りも町会に入っていなくても行ったとしても、子どもはアイスキャンディーをもらえるわけです。本当は駄目なんです。絆のあんしんプロジェクトで何かあれば来てくれる。町会に入っていないと駄目という規制は掛けづらいし、掛けてもいけないだろうなという中で、町会に入るメリットは言えても、入らないデメリットは言いにくいというのが現状です。かつては、足立区も70%ぐらいの加入率はあったんじゃないでしょうか。

#### （加藤副分科会長）

当初は80%です。

#### （岡安委員）

それが、今は50%を切っている。先日見たところ、旭川は75%でした。地域性とか、歴史とか、いろいろなことがあるので、一概に比べられないでしょう。しかし、町会・自治会の地域のつながりというのは、一定程度、やはり

必要なのだらうなと思います。町会・自治会がなくなり、NPOとかで地域を盛り上げたり、絆を作っていくというのは、どこかでまた限界が来ると思っています。住区センターの運営一つ取ってもそうです。私は、やはり、ある一定程度は、町会加入率は下げ止めなければいけないと思っていますし、町会のメリットをもっともっと訴えていかないと行けないと思います。

基本計画の中に、中年シングルの増加を位置付け、盛り込むのかは難しいと思います。基本構想と違って、基本計画は、結構具体的な施策を盛り込むものです。シングル対策を講じなければならないみたいな文言ではいけないと思っています。では、何をすればいいのか、宮本会長のお知恵を借りながら、しっかり書かないと実をなさないと思っています。私自身もまた考えていきたいと思っています。

#### （加藤副分科会長）

町会・自治会の加入率は45.7%です。いろいろなパンフレット・リーフレットを作って加入促進をしています。加入していただくことを1番目の目標としています。加入促進のいろいろなパンフレット・リーフレットを持って回ると、「メリット・デメリット」は何ですかと必ず聞かれます。メリットとしてはまず災害への対応について挙げています。災害発生に備えて、避難所運営会議や避難所訓練をやっている。阪神・淡路大震災以来、学校を拠点として避難所運営会議を足立区ではやっています。訓練も毎年やっています。そこはアピールして加入促進をしています、なかなか難しい点があります。新しく足立区に入ってこられる方にどう加入していただくか。考えていただきたいのは、地域における絆づくりが大切ということ。加入促進を進めていかなければいけないと思っていますところ。

#### （渡辺委員）

足立区の暮らしを支えていくのに、地域のコミュニティは大切だなと思っています。千住一丁目から五丁目という地域はちょっと特殊で、加入率が70%ぐらいあるところ。私は常にそのことを議会で発信して、なぜ千住地域が町会の加入率が高いのか、パンフレットを各町

会に配ることの重要性を言ってきました。古くから住んでいる方々が祭りを紡いで、その楽しみを各町会が一緒になってやっていることが大きいなと思います。今年は4年ぶりに、9月9日、10日、千住地域の多くでお祭りが開かれます。まさに、お祭りで紡がれているイメージが強い。つまりは、祭りがいないところはイベントを何か仕掛けることになる。あとは、新規に加入してくれそうな方については、この間も宅建の方と話しましたが、足立区に転入された時に、地域の情報を提供できる形をしっかりと作ってあげてほしいなと思います。

#### （岡安委員）

区民アンケートで一番やってほしいことは、「福祉」かなと思っていたのですが、ここ数年「災害対策」です。「災害対策」は「くらし」・「まち」の特に「まち」にかかわるところで大きいと思っています。足立区も地震・水害の対策をそれなりに練っています。地域防災計画なんて8cmぐらいあるような冊子になっている。すごい事細かく練っているのですが、現実的にそれを一つひとつ検証していくと、お題目では言っても実際に起きたらどうなの、という難しいところがあります。実際に、台風19号の時には、全避難所が開いた時にかなり課題が出ました。出た課題については、避難所の本部長の皆さんから意見をいただいて、一つひとつ潰していると思います。その結果、すぐにはどうしようもないというのが残っていると思う。そういうのを、またこの計画の中に反映できればいいなと思っています。例えば、災害時要支援者というのが、A判定・B判定でEまである。AとBはなかなか1人では自力で避難ができない方で抽出できています。Aが150人で、Bがざっくり300人。しかしながら、福祉部に伺うと、この人たちの避難所まで、あるいは、二次避難所・福祉避難所までの移動支援の実効性が組めていないらしいです。頭を痛めています。こういったところをどうするのかというのは、しっかりと行政にこれからも練ってもらわないといけないし、基本計画の中にも謳わなければいけないのかなと思っています。

**(加藤副分科会長)**

学校避難所運営会議において、避難訓練を平成7年からずっとやっていますが、今までは地震が対象でした。ところが、4年前の台風19号の時に、綾瀬川・中川が危険水域以上になり、避難勧告が出され、私の地域においても学校の避難所に700人余りが避難してきました。それから、水害対策をやらなくてはいけなくなりました。今、水害対策について見直しがなされてきている。ただ、それをいかにしてPRしていくか。いろいろなマニュアルはありますが、区民は実際に読んでいない。行政でもっとPRして行く必要があると思います。

**(遠藤委員)**

商工会議所本部で、自然災害のリスクという会議があり、その時、足立区柳原の京成線の問題が出ていました。かさが堤防より3mぐらい低い。その問題をどうしたらいいんですかと、関西大学の先生が来て、いろいろ話をしました。今のところ、京成は法律的に違反しているわけでもないし、国もそれに対してそんなに積極的ではないので、もう少し待った方がいいのではないかなと思うのですが、災害は待っていないものではない。いつもその問題が発生し、何かそこに対する手当がないかといっています。ただし、今、現実的に京成は少しやり始めていると聞きました。

**(渡辺委員)**

架け替えが始まりましたね。

**(遠藤委員)**

現実的に見ると、すぐに分かります。荒川のかさが上がれば、あそこは危険だなということが。昔のように川があふれるみたいなことがないといわからない。気を付けないと思います。

**(岡安委員)**

駅前滞留も北千住がすごいです、いろいろ対策、検討もされ、訓練もしています。ただし、現実、あんなふうには行かないだろうなとも思います。

**(遠藤委員)**

現実、3.11の時も避難する人たちを全然誘導できなかった。学校もあふれて閉鎖され、全然行くところがないという形になってし

まった。

**(岡安委員)**

難しいです。停電した時に真っ暗になります。駅で発電設備、ライトとかで照らしてくれるのかって聞いたら、そういう協定は結んでいないということです。区で何かやらないと真っ暗のままとなる。皆さんのスマホでやるしかないのかと言ったら、「考えなきゃいけませんね」という回答。こういったことも細かく言えば課題かなと思います。ここまで基本計画に入れる必要はないのでしょうか。

**(遠藤委員)**

大きな課題ですね。

**(岡安委員)**

デジタルサイネーションも停電すると消えます。蓄電池は入っていませんので。

**(宮本分科会長)**

本分科会は「くらし」と「まち」という二つの分野を扱うことになっています。「くらし」に関してまだ加えた方がいいものがあればお願いできますか。

**(岡安委員)**

交通弱者問題は、「くらし」の分野になりますか。

**(伊東基本計画担当課長)**

広くくりに言うと交通系は、「まち」になります。この分科会でご議論をいただきたいテーマです。防犯は「くらし」です。

**(岡安委員)**

防犯という視点が欲しいです。昨今は、鍵を掛けていれば安全ではなくなってきています。

**(宮本分科会長)**

「くらし」について、先の中年シングルに係る調査で感じたのは、男性でシングルでいる方の2割から3割の方は、仕事の点でも経済的にもすごく不安定な方です。結局、男性の場合、仕事と経済が安定しているということが結婚の大前提に日本の社会はなっている。それがないから結婚できなかったという人が非常に多いわけ。半分以上なんです。今、シングルでいる方の場合。女性はそういうことは全然言いません。50歳を過ぎると、今までやっていた仕事はだんだん条件が悪くなって、収入が減って

きているという人が出てくる。特に、一人暮らしの方にそういう方がかなり現れてくるわけです。その方たちが一番心配しているのは、このまま年を取ったら暮らせなくなるのではないかと。ほとんど、賃貸で暮らしている人が多いので、家賃が払えるだろうかとかです。あるいは、何か事情があって転居しなければいけない時に、住まいを見つけることができるだろうかという不安を抱えているわけです。そういう意味で言うと、シングル問題は、結婚する気がなくて1人でいたという、もちろんそういう人もいますけど、圧倒的多数の人はどこかの時点で結婚したいと思っていた人で、だけでもできなかった。特に男性の場合は、経済的条件が付かなかったので結婚できないという状態です。

だから「くらし」という問題からすると、非常に格差がある中、下の方についてはもっとケアが必要という感じがします。商工会議所とか職業訓練とか、職業斡旋とか、そういう機能は非常に重要だという感じがします。

#### （遠藤委員）

商工会議所でも一つの大きな課題として、リスキングやリカレントの問題というのはかなり大きく出ており、労働の流動性を高めていこうということで、いろいろな講座をやっています。新しいテクノロジーをどんどん取り入れて、DXしなければいけないという課題がありますが、会社がそれに付いていけるかどうか、すごく難しい。高齢になってくると、なかなか新しいIoTに付いていくのが難しい。その辺の労働をどういう形で移行していくといった問題はあります。特に、柔軟性と言っても足立区の場合は零細企業が多いのですが、吸い上げられるだけの力が今の日本経済にあるのかというと、それもなかなか難しい状況です。現実的には、世界上位100社の中に名前が出るのはトヨタ1社だけで、日本の企業は全くそういうところには載ってこない。しかもGAF Aのような新しいものをやっている会社があるかということ、ほとんどなくて、全部向こうから下請けでやるような仕事になっている。特徴ある日本企業を育てていくというのを課題としてやっているのですが、進むのは難しい。さっきの教育

の問題もすごくあります。

#### （國井委員）

昔は、中小企業の社長が、自分の従業員の仲人をして、よく世話をしたことがありました。そういうのはすっかりなくなってしまった。社長が親で、従業員が子どもで、という会社がなくなりました。

#### （岡安委員）

出会いのきっかけとして、マッチングアプリが多くなっていると聞いています。

#### （遠藤委員）

ただし、今は、現実的には景気は悪い部分もありますけど、結構いい会社も多いです。だから納税も上がっているし、決算も結構いい。ポストコロナとよく言いますが、今、それを回復させる状況にあるので、まだ少し稼ぐ余裕がある時に何かができないかということを行っています。その時にそれができないと、次の手がなかなか打てない。ただし、足立区全体を見ると、零細企業が多く、ゼロゼロ融資から返済が始まって、倒産と廃業が結構増えてきたんです。

#### （岡安委員）

足立区において、超零細企業は何%ですか。

#### （遠藤委員）

よく99.7と言われていています。5人、10人というのが多くて、100人いる会社は少ないです。それでも、商工会議所は結構頑張っていて、加入率は結構高いです。先ほど言ったように、加入していただく時に、メリットを相当申し上げます。また、今の会長はリレーションがすごくいい。誰とでもリレーションを取って、ちょっと会ったら飲みに行こうとそんな感じの人なので、結構、それで加入してみようかとかです。

#### （加藤副分科会長）

結婚する・しないについては、価値観の変化がすごくあるのではないのでしょうか。我々の頃とはかなり違ってきている。世帯構成人数が少なくなっており、子どももより大事になるという影響もある。

#### （岡安委員）

同じ中年シングルでも賃貸と持ち家だと全然



違いますよね。賃貸ですと、仮に6万、7万でも、もし国民年金だと満額でも差し引いたら生活できないでしょう。厚生年金でもかなり厳しくなる人もいるでしょう。だからといって賃貸も安くはならない。

**(宮本分科会長)**

東京23区は賃貸率が高いのが特徴です。特に単身だと賃貸が圧倒的に多い。

**(國井委員)**

ワンルームマンションが多いです。

**(遠藤委員)**

日本も、日本病みたいな形で悩んでいますけど、イギリスとかはどうやって克服したのでしょうか。経済が低迷して、社会的にも結構大変な時があったと思います。

**(宮本分科会長)**

でもすごく格差が大きいと言います。

**(遠藤委員)**

二極化しており、今、それを日本版カースト制度ってよく言われます。

**(岡安委員)**

サッチャー首相の時代にかなりドラスティックなことをやったとテレビで見た記憶があります。

**(宮本分科会長)**

事務局作成のグラフで、転入・転出の年齢別のものがありますが、予想通り20前後でダウンと入ってきて、それで下がるわけですが、その後30代前半と後半が転出の方が多くなっています。それに対応しているのが、0歳から4歳、5歳から9歳で、これはマイナスになっている。ということは、子どもを持ったあたりの人が出ているわけです。その後、40歳からは転入が少し多くなっているのが安定しているのですが、結局、残った人は子どもを持たない人がかなり多いという形で安定していくと思うんです。この状態で手が打てるのかどうか、30代の、この10年間の年齢層の方たちが、外に出ないで足立区に残ってもらえるか。

**(小柳委員)**

これは心当たりがあります。私もこれぐらいの時期に家族が増えてきて、家が手狭になった時に、どこかに引っ越さないといけないと思

った時に、3LDK・4LDKぐらいのサイズの家を探したとしても、賃貸ではほとんど出ていない。住み替えようとすると思うしかない。買うとなるとある程度、住宅ローンが組める与信のあるような年収がないと厳しい。私は、たまたま何とか買えたので足立区に残ることができたのですが、あのまま買えなければ、おそらく川口とかに行っていたかなと思います。多分、そのシナリオなのではないかという気がします。

**(宮本分科会長)**

先日、事務局で出していたデータによると、この年齢の人がどこに出るかということ、流山市とかになる。住宅事情はありますね。23区は、基本的に単身者仕様になってしまっている。あるいは、親がもともと住んでいて、そこに一緒に住めるとか、親が持っていた物件を利用できるとか、そういう人たちが残り、足立区外から入ってきた人は、家族を持つとここには快適な住まいがないということです。

**(渡部委員)**

住宅事情は、まさにそうです。また、女性の目線で転入する方で意見が多かったのは、やはり教育と子どもの遊び場という面で、足立区は中途半端だという意見が多かったです。せっかく公園がすごく多いというので来たのですが、実際に、家の近所で遊べるような公園がない。未就学ぐらいで外に出て遊べるような公園は、やっぱり連れていけないとない。公園が多いと言っても足りない。公園で遊んでいても、ボール遊びは駄目だとか、騒いでいると怒られる。特に、コロナの時は子どもたちが遊んでいると、くっついて遊ぶなと怒られたりした。子どもに対する目線がやさしくないとか、遊びが十分にできない。だから、田舎に引っ越したいという意見がある。さらに、足立区の教育だと大学に行けるのか心配だと言って、都心に引っ越しをする人、の二極が多かった印象がありました。

足立区は、学力が低い人への支援はとても充実していて、そこを底上げする施策はかなりたくさんあるのですが、成績がいい子は逆に学校がつまらない。授業が分かっているのに全然進

まないから、学校に行く意味がないと言い出すので、学力の高い子は都心の勉強が楽しくできる学校に行きたいと言って移動していくケースが多い。やはり子ども問題で、住宅以外の場合だと「もっと遊ばせたい」、もしくは「もっと勉強させたい」というところが足りていないと感じました。

#### （宮本分科会長）

そこも大事なことです。さっきの子育ての条件のところ、子どもの遊び場とか、公園もそうだし、児童館とか子どもの図書館とか、その他いろいろあると思います。それがどれだけ充実しているかが大きいです。

時間になりましたので、一度、今日の整理をしたいと思います。事務局からどのような意見があったのかを説明をお願いします。

#### （㈱地域計画連合 柳坪）

最初の方で「子育て」の話が出たので、それもあわせて模造紙に書いています。そもそも論として「子育てしやすい方策ってどういうことをやっているの？」という話で、メニューはたくさんあるのだけど、広報の問題があるのではないかということ。広報の問題は子育てに限らず、おそらくどの施策にも関連すると思います。あとは最低限の支援というのはちゃんとあるが、逆にそれしかない。更にそのプラスアルファというものが今後どこまでできるのかというのが、満足度アップのためには必要ではないかということ。これも、おそらく子育て支援だけの話ではなくて、全体に関わってくると思います。

このシートになりますが、現在の課題と将来の課題に分けましたが、実は曖昧なところがあって、現在の課題のところには載せたのですが、将来的にも関わってくるというのはあるので、現時点でそうかなというものを分類しています。挙がってきたのは、「くらし」に関しては全体でもご意見をいただいている商店街の衰退の話とか、あるいは町会・自治会の衰退の話。若い人が入ってきていないことにつき、その背景としては仕事があるとか、価値観の違いみたいなものが出てきているというのがあります。一方で、若い人が入ろうしても分断がある

と思われているので、なかなか入りにくいというのものではないかと。いろいろな見方が必要なのかなと思います。そもそも論として、では町会の役割とは何かというのをちゃんと整理した方がいいという話が出ました。これはもしかしたら、必要な視点の方に入ってくるかもしれませんが、今はこちらに入れています。

「くらし」に関して将来の課題ということで、お話が出たのが中年シングルのことでした。これは、今も課題かもしれませんが、まだそんなに「課題」にはなっていないということで、こちらに記載しています。おそらく10年後、20年後になって、今の団塊ジュニアの50歳が70歳になった時を考えた場合、そこでつながりや収入がある人はいいかもしれないけれど、それ以外の方たちというのがどうなっていくのかというのは、すごく大きな課題かなというのがあります。ご意見としては、やはりそういう方々は、行政・地域とのつながりが少ない方が多いので、そこは、今のうちから考えておいた方がいいというお話が出ていました。

そこでポイントとなるのは、災害時の話。地域とのつながりの必要性を説明する際、切り口としては災害時にどうするという話が出てくると思います。また、災害時の要支援・要配慮者については、個別支援計画等が作られ始めていますが、実際に計画を作った後にどうやっていくのか、実効性の問題というのは、まだこれからの課題であります。さらに、訓練もいろいろとやられていますが、今まで地震だけだったのが水害も大事になってきているので、ありとあらゆる災害の種類に対応しなければならない状況にある。一方で、いろいろな計画やマニュアルを作ったとしても、知らない方が多いことがあるので、PRが重要というのがありました。結局、訓練と現実は違うよね、みたいな話もございましたので、ここら辺をいかにリアリティと言うか、突き詰めて訓練の質を上げることも入ってくると思いますが、いくつかのシナリオ・パターンを考えていく必要があるというのがありました。

右上の欄は、新たな基本計画に必要な視点ということで、皆様が課題をお話される中で、だ

からこういうのが必要だよねという意見を私の方でピックアップしてみました。例えば、中年シングルの話とかで、地域とのつながりとかがないというのが課題になる場合、これからは絆と言っても町会みたいな強い絆もあるし、もうちょっと緩い弱い絆もあると思うので、そこら辺のバリエーションをもうちょっと何か増やせるといいのではないかというのが新しい視点かなと思いました。その時に、災害時にはつながりが必要なのでということで、メリットみたいなものは諦めずに言っていく必要があるというのはありました。

あとは、シングルが増えていくのは事実なので、それはそれとして彼らも暮らしやすいまちである一方で、やはりそれだからこそ子育てしたいと思っている方も過ごしやすいまちというのは必要だと。これは打ち出していく必要があるという話でした。

最後に、人口動態の話で、30代の子育て世代が出ていっているというのは、先進自治体と比較して何が足立区で足りていないということの整理する、こちら辺はもうすこし深掘りをしてやっていく余地があるというお話でした。

#### （宮本分科会長）

今日は、いろいろなご意見が出ましたが、それを元にして新たに基本計画で必要な視点を考えていくことになります。もう少し時間がありますので、基本計画に盛り込むことについて、何か追加があればお願いします。

#### （渡辺委員）

公共施設のあり方について。シングルの方の居場所づくりで言えば、居酒屋で女性が飲むとか、男性もいろいろな趣味でつながるというのはあるでしょうけれども、そこにはお金も必要になってくるので、公共施設であれば、若手に必要なメニューをそこに入れることで多少改善することができるのではないかな。公共施設のこれから建て替えだとか、長寿命化という際に、いろいろ複合的に公共施設を考えていかなければいけない時期を迎えています。例えば、千住で言えば、千住常東小学校の建て替えが令和10年ぐらいから始まりますが、駅から近いところなので、単純に学校を建て替えるだけでは

くて、例えば、高層化してその中にいろいろな公共施設を入れ込んで、他の施設を補ってあげる。そうすると、足立区の中にも余剰地ができるので、そういった考え方も視点として入れるべきだと思います。

#### （宮本分科会長）

公共施設が魅力的であるかは、地域の魅力に非常にかかわると思います。今、大分、公共施設は変わってきたと思いますが、図書館などもさっきのシングルの中年層でも、1人で休みの日は図書館に行くという声があります。図書館は本が並んでいるだけじゃなくて、もっとくつろげて楽しくて、いろいろなものがそこで得られるとか、あるいはそこで人と出会えるとか、そういうものに変えていかないといけないし、今、そういう図書館がだんだん増えてきたと思います。図書館以外のところもそういうことが考えられるのではないのでしょうか。

#### （渡部委員）

防災について、とてもたくさん意見が出ましたが、防災訓練のあり方については改めて考えていく必要があるかなと感じました。要支援者が避難する。一次避難所から二次避難所に移動する手段がないとおっしゃっていたのはまさにそうです。障害のある方は、一次避難所に行くことすら大変なので、やっぱり直接二次避難所に行きたい。だけど、そこはそういう仕組みにはならないのでといったところが乖離している。それをやろうと思ってもできないから、できる方向で、もうちょっと変えていくみたいなのが必要だと思っている。今の防災訓練は100年前の関東大震災が元になっていて、火災が発生するから火を止めて、みたいな防災訓練になっています。だけど今、災害時の避難としては、在宅避難がこれからはベースになるなど形が変わってきているため、そこも改めて防災訓練のあり方を考える時かもしれません。地域で防災訓練は、必要ではありますが、今やっている形が時代に見合っているのかどうかというのは検討する必要があると考えました。誰にとってもどういう防災訓練がいいのか。障害者でいつも参加しているけれども、訓練に入れてもらえないという声もたくさんあります。参加し

てもその人たちは何もできないという状況もあり、それをどう組み込んでいくのかみたいな変革が必要だと感じています。

**(岡安委員)**

「くらし」に関わる場所では環境の視点について。CO<sub>2</sub>排出の場所としては、企業も大きいのですが、意外と家庭からの排出量が多くて、ここを工夫することでだいぶ削減ができます。区民に対して、足立区がこういうふうにやりましょうっていうのを、やっていないことはないのですが、浸透はしていない。もう少し、区民一人ひとりがCO<sub>2</sub>削減というのを意識した、環境に優しい生き方というか、生活をしていく。また、23区で「環境と言えば足立だよ」と言ってもらえるような足立区にしていく施策も必要なのかなと思っています。そういった視点も入れてはどうかと思います。

**(遠藤委員)**

商工会議所でもSDGsに関することは盛んに言われます。それに対する取り組みも相当しています。SDGsは、もともと日本初ではなく、ヨーロッパとかから出てきたものですが、よくよく見てみるとイギリスなどは、結構ビジネスにしているところが多いです。日本もビジネスとして真似をしてやるのかやらないのかということが問題として、今、出ています。やらないわけにもいかないという流れの中で、実際にどうしたらいいかが分かりにくいところがあります。やらないわけにはいかないですが、結構、お金も掛かる。

**(岡安委員)**

食ロスはだいぶ進んできましたが、CO<sub>2</sub>削減と言うとなかなか難しいですね。

**(小柳委員)**

交通の部分で、特殊小型原付、いわゆる電動キックボードの解禁に伴って、道路の使われ方がかなり変わってくる可能性があります。最近、大きめの道路には自転車専用レーンがあります。また、ヘルメットも努力義務化されました。一方で、自転車専用レーンが駐車場で埋まっているといった問題も結構あります。そういう環境整備みたいな部分で、取り締まりの強化で済むのか、ポールを立てるとか、少しずつ、自

転車とか特殊小型とかがスムーズに移動できる環境づくりを入れていただけると嬉しいと思いました。

**(遠藤委員)**

区で統計データを出していますが、総務省や都庁の数値とともに、商工会議所は、何かする時にエビデンスとして使います。例えば、シングルのデータとかはあるのでしょうか。

**(勝田政策経営部長)**

もちろん、「数字で見る足立」に載っている数字以外にも、議論に活用いただけるものは出していきます。今、いろいろなご意見をいただいている中で、足立区から転出・転入した人がどういう理由でそうしたのかとか、あとは子育てで生まれてから大学進学までいろいろな子育てがあるので、どういった援助が必要かというアンケートもやっているの、そういった資料も合わせて皆様にお示ししたいと思います。

**(岡安委員)**

「数字で見る足立」にシングル率とかは載せられないのですかという話ですね。

**(勝田政策経営部長)**

今回、宮本会長からご提案をいただいたので検討します。毎年、改訂はしていますが、次回、載せるとすれば来年度になると思います。今回、基本計画にこういう資料が必要だという話があれば、それに合わせてお出しします。

**(加藤副分科会長)**

足立区が良くなったところをPRしてもらいたいです。例えば、大学が六つになったじゃないとか、交通の便がこう良くなったじゃないとか。防犯面もこう良くなったとか、そういった良い面です。足立区の魅力的なところをいっぱい出してもらいたいと思います。

**(宮本分科会長)**

国に孤独・孤立対策担当室ができて、今年、それが法律になったということで、今孤立・孤独に関するいろいろなテーマで動いています。足立区の場合、孤独ゼロプロジェクトは高齢者にやったのですが、同じ考え方は、高齢者だけでなく、すべてに及ぶ重要なことだと思っています。例えば、イギリスは孤独・孤立につき、最初に大臣を作り、対策室を作った国です

が、それをモデルにして日本に持ってきた経緯があります。一つの例ですが、イギリスは「リンクワーカー」という人を配置しました。例えば、心身の不調を訴える患者に必要なのは医療なのか、社会的要素なのかを、かかりつけ医らが判断します。後者なら社会的処方を実施します。リンクワーカーは、関係が希薄になった地域社会で人々の関係を築き直すために、例えば、具合が悪い人を地域のグループとか、公的なサービスに橋渡しをする役割を果たします。この考え方は、他にも通用します。新しい土地に入ってきて子どもを産んだのだけれども、何がなんだかよく分からなくて、孤立にさいなまれるという母子に必要なサービスにつなぐという形の絆づくりです。あるいは、いい公園があるよとか、こんな施設があるよとか、こういうボランティア組織があるよというような、とにかく何でもつなぎ役をする人を地域に配置していくといった、そういう考え方です。これも新しいコミュニティづくりとしては有効ではないかということでご紹介しておきます。

もう一つは、男性が地域の中で何かやると言っても、大体、地域でやっている活動は、全部、女性仕様です。だから、男性にとって魅力がないものには入りにくい。これもイギリスで非常に注目されている試みで、男性の大多数が関心を持つのが大工仕事だそうです。それで男性で退職した人たちがDIYで活動するという事で、メンズ・シェッド、男たちの小屋ということで、これがある1か所で作られたら、それが全国に広がって、今は何百とあるようです。そこに行っているいろいろな道具が全部揃っていて作業ができる。女性の場合は、おしゃべりから関係を作る傾向がありますが、男性の場合には、何か作業をやるところから関係ができていくというような意味では、メンズ・シェッドって非常にいいヒントがあると思います。そういうようなものを地域の中に作っていないとコミュニティは作れない時代状況ではないかと思っています。

本日は、たくさんご意見が出て、とても良かったと思います。このあたりで閉会にさせていただきます。

## 5 事務連絡

### (伊東基本計画担当課長)

次回以降、基本計画に必要な視点について、どのようなものが必要なかというのを更にご議論を深めていただきたいと思います。次回のくらし・まち分科会のご案内です。令和5年の11月6日13時からの開催を予定しています。場所は、先日、審議会を行いました8階の特別会議室です。よろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。